

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873400352		
法人名	社会福祉法人保内園		
事業所名	グループホームのどか(壱番館)		
所在地	茨城県久慈郡大子町矢田1403-1		
自己評価作成日	2021年8月28日	評価結果市町村受理日	2021年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhou_detail_022_kihon-true&jiyosyoCd=0873400352-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは田園地帯の中の住宅地にあり、四季の移ろいを体いっぱいに感じることでできる恵まれた環境の中で、「ここに入居してよかった」と心から感じていただけるグループホームを作ろうと職員一同頑張っています。この姿勢は開設当初から一貫して変わりません。それには居心地の良い家庭を作ること。一番心がけているのは家庭的な雰囲気づくりです。家庭的とは設備や調度品ばかりでなく、最も大切なのは温かな人間関係にあると私たちは考えます。入居者から信頼され心からの笑顔を見せてくれたとき大きな喜びを感じる職員、共に笑い共に涙する心優しい職員が揃っています。そんな職員たちがいる温かい家庭が私たちのグループホームです。なお、平成15年4月に1ユニット(壱番館:定員9人)で開設した当事業所は、平成24年5月に2ユニット(貳番館:定員9人)増設し、現在は計2ユニット(定員18人)になりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

養護老人ホームを運営する法人が母体。老人会や幼稚園児、地域との交流も盛んに行われている。コロナ禍の現在、外部との交流は難しいが、感染対策をしながら養護老人ホームとの交流は継続されている。職員は『普通の生活』『笑いと楽しみ』『ゆっくり』できることは自分等、8つの理念に沿って家庭的な環境づくりを心掛け、一人ひとりに向き合うことの難しさや大切さを理解し、支援している。利用者は家族との面会が制限されている中でも、体操やレクリエーション、散歩を日課とし、利用者同士、談笑しながら、穏やかな生活を営んでいる。川に近い立地であることから、毎年、水害回避の為の避難を余儀なくされるが、避難時の乗車リストも含めたマニュアルを整備し、毎日の避難の手順を読み上げ、定期的な電化製品や火器の点検を通して、職員の災害に対する意識を高めている。***新型コロナウイルス感染症対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関係性と認知症ケアのあり方を示した開設当初からの理念を大切にしている。事業所内に掲示したり、ミーティングで理念を復誦し理解を深めるとともに、日々の業務に反映、実践するよう努めている。	開設当初からの明確な8つの理念を毎日のミーティング時に復唱し、その日のケアをスタートする。新人職員にも理念の説明をし、認知症やグループホームへの理解をもって業務に就けるように配慮されている。管理者や職員は、わかりやすい理念ではあるが、『普通の生活』が一人ひとり違っていること、できることは意欲に結びつくので、じっと待つこと等、実践することの難しさを感じながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元幼稚園の運動会・発表会の招待やホームにも園児が訪れる。母体施設と共同で実施する盆踊り・運動会は、老人会・子供たち・ボランティア等の地域住民が多数参加する。近隣住民の防災サポーター支援も得ている。(感染症対策のため交流を自粛中)	各種イベントやホームの避難訓練には、防災サポーター等のボランティアの参加があったが、コロナ禍でイベント等の開催が中止となり、交流ができていない。法人内の養護老人ホームとは感染対策をしながら交流を継続している。感染状況を見ながら、少しずつ自粛緩和を検討したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習や職場体験、視察研修、見学等の受け入れをとおして、認知症や認知症の方との接し方等についてお伝えしたり、理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画に基づき、2ヶ月に1回開催している。今年度はコロナ禍で書面開催としている。ご利用者様・職員に関する活動内容、ご利用者様の状態等を報告するとともに、評価結果についても報告し、いただいた意見をサービスに反映するよう努めている。	対面での会議開催時と同じ資料を作成し、運営推進委員へ郵送して意見を求めている。問い合わせやホーム内の状況、新型コロナウイルスに関する質問等があった。質問に対する回答も含めて議事録を作成し、委員と全家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様の暮らしぶりや状況を伝えるとともに町からは福祉行政等についての情報をいただいで活用している。運営推進会議にも町福祉課職員が参加、情報交換している。	町の担当課とは電話やメールでのやり取りが多く、必要な書類も郵送やメールでの提出を求められている。要介護認定は、利用者の状態に変化がない限り、自動延長となっている。地域ケア会議は、対面とオンラインの両方で開催され、職員や他事業所、社協などからの情報提供や意見交換がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を通して職員の共通理解を図るとともに、虐待防止マニュアル、行動指針を設け取り組んでいる。スピーチロックの廃止にも取り組んでいる。	拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催し、運営推進会議に報告をしている。拘束に対する研修は、年間で計画された勉強会に含まれている。職員は拘束による弊害を理解しており、スピーチロック等が見受けられたときには注意をしている。自宅に帰りたいと外に出る利用者がいるが、見守りをし、外に出た時には一緒に歩くなど、拘束をしない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも高齢者虐待防止法等に関する勉強会を実施し、関連法の理解と防止に努めている。虐待の報道があるときは、当事業所に照らして考え、振り返るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連制度のファイルを常備すると共に勉強会を開き理解を深めている。対象となるご入居者様に対応できるように関係職種との連携を図るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書等で入居や解約に関わる内容や運営理念、苦情解決の方法等について説明し、ご利用者様やご家族等の理解を得るよう努めている。解約時は退居後の生活に関する相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置したり、毎月ご利用者様ごとの「生活の様子」報告書を家族へ送付し、日頃の暮らしぶりを伝え、意見・要望を募っている。ご家族の来訪時等で気軽に意見を言える機会を設けている。(感染症対策のため面会を制限中)	面会制限中ではあるが、居室の窓越しで会うことは可能。オンライン面会を取り入れて家族に周知し、操作方法も図入りで説明している。件数は少ないがオンライン面会をされた方がおり、海外に住む家族と話された方もいた。オンライン面会中は、職員は操作のみ行い、気を遣わずに話せるよう、席を外している。直接面会したいとの声はあるが、まだ様子を見ている状況。しかし、やむを得ない外泊を認めるなど、柔軟に対応を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員一人一人と会話する機会を設け、意見や提案をいつでも傾聴する姿勢でいる。行事の企画やボランティアの導入・休憩時間の見直しによる職員の負担軽減等、良い意見や提案は日々の運営に反映させている。	毎朝のミーティング、毎月の職員会議を実施。会議以外でも職員同士のコミュニケーションがとれており、良好な職場環境が整っている。外出制限で職員のストレスも募っているが、ホーム全体で感染対策を徹底することで、絆が深まり、団結できたとも感じている。職員からも、食事介助が長引き、昼の休憩時間になってしまった時には、臨機応変に休憩時間の変更がされたり、2層式洗濯機を全自動に、台所にエアコン設置がされるなど、職員の要望が受けとめられていることを実感しているとの話が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が更なる向上心を持ち、業務に取り組みるように適時面談の場を設けている。 職員のやりがいや満足感に繋がる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加を促すとともに毎月の内部勉強会や日々の業務の中でも知識や技術を身につけられるよう努めている。オンライン研修も取り入れている。介護福祉士の資格取得支援制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会等に積極的に参加し、他事業所とのネットワークづくり、情報交換を行っている。以前、同業者の相互訪問を実施したが、今後も機会を設けたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問では、雑談をまじえながら本人の思いをゆっくり聞くようにしている。ホームへ持ち込む品物なども本人の希望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問やホーム来訪時・電話でご家族等の話を聞いている。ホームでの暮らしを詳しく説明して不安を解消していただいたり、ご家族の要望で入居日を調整したり、ご家族へ入居後の協力を依頼したり、双方の思っていることを出し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の実情や必要性、緊急性を見極め、当方以外のサービスの情報提供や紹介をしたり、関係機関に繋いだり柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵、時季の行事やしきたりを教えていただいたり、特にホームの畑では農作業の進め方など暮らしの中で職員がご利用者様から聞いて学ぶ機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪時にご本人の現況を報告したり、定期的に写真入りのホーム便りを送ることでご本人の様子を報告している。細やかに連絡を取り、情報を共有し、共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来訪できる雰囲気づくりに努めている。かかりつけの理美容院に行っていたり、馴染みの商店や菩提寺の訪問に付き添ったり、ご家族の協力を得て自宅や親戚、友人宅の訪問をしていただいている。(感染症対策のため面会・外出を制限中)	面会が制限され、家族に手紙で気持ちを伝える方がいる。理美容は出張理髪で対応。緊急事態宣言中は、出張理髪も中止したが、利用者はテレビで新型コロナウイルス感染拡大のニュースを見ており、仕方ないと理解してくれる。ユニット毎に新聞を購読。お悔やみ欄やテレビ欄など、それぞれが気になるところに目を通して。共有のテレビは自由にリモコン操作をしていいことになっているが、全室テレビ完備である為、自室で視聴することもできる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係や性格等を把握し、孤立せず、安心感が得られるように配慮している。家事や畑仕事、行事、レクリエーション等でご利用者同士が共に関わり合い、支え合える機会を設けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も継続的な関わりを大切にしている。退居されたご利用者様を自宅や入院先に訪ね様子を伺ったり、ご本人やご家族の相談に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞き取りや日常の様子を行動記録表に記録することで、ご本人の意向や思いを汲み取り、ご本人本位で検討している。	思いを伝えることが困難な方、難聴の方にはたっぷり時間を取って傾聴するよう心がけている。利用者同士の会話の中で理解しあえなかった時には、職員が間に入って話を進めることもある。利用者同士の町内の話題や昔の話、共通の知り合いの話などから思いをくみ取ることもある。職員に訴える内容としては、帰りたい、食べたい、出かけたい、が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問やご家族やご本人、居宅介護支援事業所の担当ケアマネジャー等と連携を図り、生活歴、生活の様子、家庭状況、サービス利用状況等の情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にご家族やご本人から一日の様子や身体状況、認知症の発症経過等の情報をいただいたり、健康診断書で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からいただいた情報、生活の様子などからご本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。家族からの要望やご本人、関係者の意向も汲んだ介護計画となるよう努めている。	計画作成者が、職員や家族・利用者の意見を聞いてアセスメントを実施し、プランを作成している。プランの実施者には本人、家族、職員等の役割が記載されている。時間を記した1日の行動記録にケアプランと連動した普段の生活を記録している。記録やスタッフ会議等で話合った結果を踏まえ、3ヶ月から6ヶ月毎にモニタリングし、次の計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等は個別の行動記録表、健康管理ノート、バイタルチェック表等に記録し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体施設との共同開催行事への参加などのサービスが利用できる。本人、ご家族の状況により病院への通院や理髪店、墓参りへの付き添いや送迎、入院時の洗濯や介護用品補充の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの理美容室の方に送迎をお願いしたり、商店や菩提寺等に引き続き対応を依頼したりしている。警察、消防へも情報を伝え協力していただき、安全な暮らしの支援に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医が継続受診できるように支援している。現在は二つの医療機関でそれぞれ週1回往診があるとともに、地元の精神科医の受診もでき、心身の変化に適切な対応をしていただいている。	2つの医療機関から週1回と隔週1回の往診を受け、お便りに受診結果を付記して送っている。発熱や変化があった時には家族へ連絡し、連絡したことも記録されている。町外の医療機関受診は家族付添いで、ホームからは日ごろの様子を口頭で家族に伝え、結果の報告を受けている。緊急事態宣言中は、オンライン受診になったこともあった。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の母体施設看護師や往診担当看護師に情報や気づきを伝えて相談し、日頃の健康管理や適切な医療を受けるための助言や指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時等から医師、看護師との情報交換や相談、連携に取り組んでいる。入院後も定期的に入院先を訪問し、病院関係者から経過説明等の情報を得て早期退院と退院後の受け入れ環境を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして看取りはしない方針であるが、「終末期ケア対応指針」を定め、重度化した場合の対応や事業所としてできることできないことについて入居時等にご本人・ご家族に説明している。	契約時に終末期ケア対応指針を説明し、看取りは行わないことについて家族の了解を得ている。重度化した時には、1ヶ月を目安として主治医、家族と話し合い、方針を決定する。重度化された場合には、特養等の施設替えを提案することもある。町が力を入れ介護事業所もデジタル化を目指しており、オンラインで医療相談ができるような計画がされている。看取りの研修を年1回は行っているが、看護職員がいないこと、死に直面することへの職員の不安を軽減できるまでには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救急法講習会に毎年参加している。内部研修で定期的に応急手当や初期対応の訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、非常災害対策計画を定めるとともに、日頃から緊急時の避難経路や対応を確認。定期的な避難訓練を実施し、年一回は消防署員の立会いを得ている。地域の方が防災サポーターとして登録、一緒に避難訓練も実施している。	老人ホームと合同の訓練、独自の訓練を年2回ずつ行っている。朝のミーティングで火災時の避難の手順を読み上げて確認している。水害回避の為、毎年避難をしており、乗車リストを作成、持ち出しグッズも準備している。避難所は一般の方とは別になっているが、帰ってから体調を崩した利用者があり、環境の変化は負担になっていることを改めて認識した。備蓄についても、養護老人ホームと合同で水、食料、発電機等用意し、リスト化している。防災サポーターについて、協力内容を具体化していきたいと考えている。職員は、朝のマニュアル読み上げはよいこと捉えている、実際にその通りに動けるか不安も感じている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の尊厳とプライバシーの守り手としての意識を持ち、利用者と丁寧に対応している。食事・入浴・排泄等のケアや暮らしの中でのさまざまな場面において、自分たちの態度や言葉遣い、対応の仕方に気をつけている。	トイレや入浴時の声かけ、入浴の順序、利用者同士の関係性等に配慮した支援を行っている。ゆっくりとお茶を飲む時間は減っているが、一緒にテレビを見たり、意識して1:1で関わる時間を持つようになっている。写真の掲示やお便りへの掲載等について、文書で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの介助で好きな衣服を選んでいただいたり、ご利用者様の献立作りへの参画や外食や喫茶で好きなメニューを選んだり、暮らしの中に自己決定の場を用意している。日頃から職員の一方的なお仕着せになっていないか注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で無理強いすることのないよう、ご利用者様の個々の希望に沿って臨機に対応している。ご本人の希望で散歩や買い物に出かけたり、ゆっくり部屋で本を読んだりテレビを見たり、思い思いに過ごす時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけその日の衣服はご本人に選んでもらうようにしている。出張理髪も利用できるが、希望があれば街の理美容院へお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にご利用者様の希望を取り入れたり、ご利用者様の力量に応じて、食材の買い物・食事作り・配膳・後片付けを職員と一緒にいただいている。	利用者の希望を聞いて職員が毎日の献立を考えている。毎日買い物には行くが、配達も利用している。果物や栗の皮むき、片付け、お茶碗拭きなどを利用者も一緒に行く。広告を目で楽しみ、テイクアウトを利用することもある。パンケーキなどのおやつレクも楽しめる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の体調や嗜好、嚥下により、別メニューや食べやすいもの飲みやすいものに調理したり、栄養補助食品も活用している。入浴後の水分補給など、必要な栄養・水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力量に応じて声かけ、見守り、介助により口腔ケアをしている。義歯は毎日、洗浄剤で清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。トイレ声かけ又は誘導、夜間のポータブルトイレの利用、介護用品の活用で個々の状況に応じた支援をしている。	排泄チェック表を利用し、日中はトイレでの排泄を支援している。排泄用品は利用者負担になるため、町から6,000円の補助はあるが、家族の負担軽減も意識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給とともに便秘予防のための献立を取り入れている。散歩や体操で身体を動かすようにしていただいている。便秘があれば医師に繋いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の機会を毎日設けることで、無理強いすることなく本人の希望や体調に合わせた入浴ができるようにしている。入浴剤や季節に合わせた湯(苜蒲、ゆず、りんご)を楽しんでいただいている。	入浴は午後。毎日入浴している利用者もいる。二人介助が必要な方もいる。拒否される方からも、入浴後は「気持ちよかった」との声が聞かれる為、なるべく入浴できるよう工夫して声かけをする。脱衣所にもエアコンを設置。皮膚状態を観察したり、リング湯などの季節の湯を実施。清潔で楽しく安全な入浴支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドが合わない方には布団で寝ていただいたり、明かりやテレビがついていると安心して入眠できる方にはそうしていただいている。昼寝も一人ひとりの習慣や体調に応じていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様ごとに「薬の説明書」ファイルを作っている。薬は個別のケースに入れて管理し、力量に応じた服薬支援をしている。症状の変化を把握し、医師や看護師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・調理・裁縫等の家事のほか野菜作り・ガーデニング・新聞・読書・カラオケ・テレビ・買い物・ドライブ・カメラ等、一人ひとりの趣味や経験に応じた活動ができる機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって前庭に出たり、近辺の散歩に出かけている。買い物・ドライブ・外食・喫茶・ピクニック等、戸外へ出る機会を多く設けている。ご家族と自宅・外食・墓参等に出かける方も多い。(感染症対策のため外出制限中)	コロナ禍で制限はあるが、気分転換にドライブに出かけたり、近くの公園まで散歩したり、敷地内は自由に歩くことができるように支援している。受診等に出かける際には、マスク着用で感染対策をする。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じて、お金を所持していただいたり、ご本人が衣服や菓子などを買う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を使って自室から電話していただいたり、手紙や年賀状の代筆をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から差し込む強い日差しを遮光シール・カフェカーテン・よしず・朝顔で作った緑のカーテンで遮った。食事に集中できるようテレビを消すようにしている。のれんを台所や居室の入口に下げたり季節の花を飾っている。空気清浄機の設置や芳香剤を各所に置き、匂いにも配慮している。	共有スペースは安全に歩行できるよう整理整頓がされている。明るさや温度や湿度を管理し、次亜塩素酸噴霧器を購入して感染対策に努めている。ホールにはカレンダーや幼稚園児からの手紙、感染対策ポスター、廊下には避難経路図が掲示されている。冬、畳スペースにはコタツも設置される。利用者は、体操、塗り絵、脳トレ等のパズルに取り組んでいる。ユニットの間には防火扉が設置されている。トイレはタイルで掃除しやすく、温度差解消のヒーターが入っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳敷きの中央にコタツを置き、ゆったり過ごせる居間がある。外回りでは、庭や玄関に椅子・ベンチを各所に配置し、居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族に入居前の馴染みの物品の持ち込みを勧めている。椅子・鏡台・タンス・仏壇・壁飾り・写真・時計・置き物等、一人ひとりが思い思いの品を居室に置いて過ごしている。	居室には洗面台と低めのタンス、テレビが設置され、使い慣れた鏡台や椅子などが持ち込まれている。ぬいぐるみ、思い出の写真、自分の作品などを飾り、その人らしい空間を作り出している。畳の部屋があり、毎日自分で布団をあ上げ下げをしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の状態に合わせ、新たな手すりや移動用バーを設置したり、居間のふちの傾斜部に滑り止めを貼付した。トイレの案内表示も利用者の目線に合わせて移動したり、床面にも貼付したり工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームのどか

目標達成計画

作成年月日 : 2021年12月23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	近年想定外の災害が発生している。様々な状況を想定して入居者様の健康や命を守る為の訓練を行う必要がある。	全職員が、スムーズに動けるように様々な状況を想定して避難訓練を行う。実際に避難が必要になった時に動きに迷いが生じてしまわないように、実際の避難時により近い状態での訓練を充実させる。	様々な場面、時間帯、幾つかの避難経路を想定して実施するなど従来と異なることを試しながら、職員の意見を収集し課題、問題点を明確化する。次回の実施内容、目標についても話し合う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。